

## 北野高校定時制の思い出

平成 28 年 9 月 6 日

32 期(昭和 48 年卒業) 沖 秀恵(僧名) 旧名 秀一

私は、北野高校定時制に昭和 44 年 19 歳で入学しました。同 48 年卒業して、京都で仏教を学んだ後、昭和 54 年住み慣れた大阪を離れ名古屋熱田の憶念寺(浄土宗)へ僧侶として入寺しました。その後、春日井市高蔵寺ニュータウン(中央西線高蔵寺)に寺を移し住職をして居ります。戸籍も秀一(しゅういち)から秀恵(しゅうけい)に変えました。

先般、前田事務局長さん、そして数年前は古城元会長さんより電話を頂きましたが、先輩達からのご連絡に北野高校の夜学で学んでいた事が懐かしく思い出され、大変嬉しく思いました。

北辰会報等に見る学校の歴史、そして皆様方の活躍等を拝見致しますのはとても楽しみな事です。ただ、同期の方々の便りが無い事が残念です。同窓会で頑張っている居られた平井章君が若くして亡くなられ、とても悲しく残念に思いました。真面目で優しい彼の顔が今も目に浮かび心が痛みます。

私どもの三年四年のクラスは、授業中も笑いの絶えない楽しいクラスでした。そして、善き先生方にも恵まれましたのも幸いでした。

担任で物理の安藤先生、英語の釋(南野)先生、山田先生、大石先生、国語の秦先生、辻村先生、磯田先生、政治経済の吉田嘉高先生、社会の河合先生、保健体育の北条先生、亀井先生、養護の瀬野先生、非常勤で国語の中川先生、美術の中村先生。そして、食堂の牛乳ビンの底のようなメガネのとても親切で面白い小母さんの事も忘れられません。

地理の宮井先生(神奈川大学に転職)、生物の石崎先生、お二方は私どもが卒業して数年で病で亡くなられました。石崎先生の葬儀は、私がお世話に成って居りました、国語の本多先生の唯敬寺(茨木市別院町)で行われました。河合先生が参列されて居られた事を憶えて居ります。

本田先生も昨年(平成 27 年 3 月) 83 歳で亡くなられました。

安藤先生、南野(釋)先生、友達と行った喫茶ビクトリア、中華の来来軒、不二家、敷津庵、酒饅頭の喜安等の十三界隈の事が懐かしく思い出されます。目に浮かぶ先生方、友達顔、声、皆んなあの時のままです。

安藤先生のお話しでは、東京八王子の進藤さんからは年賀状が届くとの事、私も仕事等で中央線の塩尻を經由して八王子へ時々参りますが、元気でお暮らしの事と嬉しく思いました。

原田君は中学の先生を定年退職し、菅君も定年退職し共に高槻にいます。有沢君は姫路で西本願寺派満勝寺の住職をされています。彼の話では同級生の徳

丸順子さんに檀家先で再会したが、その後早くして亡くなられたとの事、あの優しく美しい彼女の事を思い出して胸が痛みました。共に頑張った仲間達、それぞれに幸福に暮らしていて欲しいと思います。

懐かしい思い出の中には、夜学生の持つ生活の厳しさが有りました。随分以前になりますが、NHK ラジオ深夜便で河村陽子アナウンサーが夜間学校の特集をされた事が有りました。私も生活に追われ乍ら頑張っている夜学時代の事を思い出して、胸一杯になった事を憶えて居ます。

昭和 40 年の入学写真 (72 年史 258 ページ) には学生服が多く見られますが、昭和 44 年では多くが私服です。時代の変化が伺えるこの頃、千里丘陵で万国博覧会が開催されました。そして、この国は急速に豊かに成ってゆき、高校進学率も年々高くなってゆきました。

私が入学した時代は、地方から集団就職で来る人達や在阪の中学を卒業して就職する人達がまだまだ沢山居ました。高校進学を断念せねばならなかった者にとって、夜学に通う事は色々と複雑な思いも有りましたが、明日への一筋の希望でした。

義務教育だけでは、就職や資格取得等、やはり不利な社会でした。当時の高校卒業者は大手企業に就職出来ました。大手都市銀行の方々の中にも、支店長を含め高校卒の方々がかなり居られました。(昭和 60 年)

我々の夢と希望を育んだ母校も 72 年の歴史を閉じてしまいました。十三駅前の火事、閉店して無くなった思い出の店、時の流れの中に自分の生きて来た証が一つ、また一つと無くなって行きます。

卒業して 44 年、時の旅人に成ってあの時の自分に会って助言が出来れば、と思い乍ら失敗だらけの人生をふらふらに成り乍ら生きてきました。大阪人らしく辛い時にも笑いを忘れず、気ままな一人暮らしをして居りますが、今、72 年の歴史の中にあの学び舎で苦楽を共にして来られた、多くの仲間達の事に思いを致し、御無礼致します。